

様 式 C - 1 9、F - 1 9 - 1、Z - 1 9 (共通)

科学研究費助成事業 研究成果報告書



令和 5 年 6 月 1 1 日現在

機関番号：30107

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2022

課題番号：15K21311

研究課題名(和文)「New Americans (新アメリカ人)」と21世紀アメリカ女性文学

研究課題名(英文)The Study of American Women's Literature in the 21st Century by "New Americans"

研究代表者

渡部 あさみ (Watanabe, Asami)

北海学園大学・人文学部・教授

研究者番号：90455006

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,100,000 円

研究成果の概要(和文)：本課題では、主に1965年移民法改正以降に多くが移民した「New Americans」(新アメリカ人)と呼ばれるエスニック・グループのアメリカ女性作家たちによる自己/コミュニティをテーマとする2000年以降出版作品の研究を行った。これらの作品から、グローバル化が進んだ「アメリカ」および「アメリカ人」のアイデンティティ形成について、特に人種/エスニシティ、ジェンダー、階級、身体などの文化的差異に関わる表象を分析考察している。「世界文学」化する現代エスニック女性文学の多様な表象から脱中心化を検証すると同時に、21世紀のアメリカそしてアイデンティティに関わる諸問題を探ることを目的とした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で対象とした作家・作品は、近年アメリカの大学・大学院の授業で扱われるなど注目されているが、研究は多くない。しかし、近年「New Americans (新アメリカ人)」と呼ばれるエスニック・グループの人口比率は顕著に増加して存在感を増している。これらのエスニック・グループを背景とする女性作家たちの自己とコミュニティの表象を分析するこの文学研究は、量的研究からは見えてこない現代アメリカ人の姿を映し出している。本研究を通し、多様化する現代アメリカ人女性を取り巻く文化とアイデンティティ形成、そして「アメリカ」の諸問題を解明する事例研究にもなる点で、学術的・社会的意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：This study examines 21st century ethnic American women's literature, focusing mainly on works published after 2000 that concern with themes of self/community by writers of the ethnic group known as "New Americans," many of whom immigrated to the United States after the 1965 reform of immigration law. This research analyzes and discusses the representations of cultural differences such as race/ethnicity, gender and class from these works. The purpose of this project is to investigate the ways in which these women writers decenter and relativize the existing notion of Americanness, as well as to explore issues related to identity and contemporary America in the 21st century.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：現代アメリカ女性文学 エスニシティ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究は、申請者が「現代エスニック・アメリカ女性文学研究プロジェクト」として在籍していたメリーランド大学大学院アメリカ研究科において着想と指導を受け、2005 年から継続して行う研究である。本プロジェクトは、日系の現代アメリカ女性作家たちの研究から始まり、複数の助成を受けてアジア系や中南米系を含む現代アメリカ女性作家作品に取り組んできた。本研究は、この「現代エスニック・アメリカ女性文学研究プロジェクト」の成果のさらなる集積を目的とした。

本研究では Mary C. Waters と Reed Ueda の編著 *The New Americans: A Guide to Immigration Since 1965* (2007) を基に、1965 年以降多くが移民した「New Americans (新アメリカ人)」と呼ばれるエスニック・グループの現代アメリカ女性作家の研究を行った。アメリカの移民政策においては 1920 年代から差別的な国籍別の割り当てにより移民が厳しく規制されてきた。しかし、1965 年の移民法改正を転機として大きく状況が変化し、アジア諸国の割り当ての拡充のみならず、家族の呼び寄せを無制限とし、親族の移民についても緩和された。その一方で、西欧諸国の移民に初めて規制をかけることとなった。この移民法改正の結果として「アメリカ」は 21 世紀を迎えてさらに多様化を深めている。

次に本研究課題で主に取り上げたアジア系と中南米系の 2 つのエスニック・グループについて、「New Americans」としての文脈からさらに説明する。アジア系アメリカ人たちは、1965 年の移民法改正に多大な影響を受けている。この法改正により、アジア系の「New Americans」がエスニック人口構成を大きく変え、それまで中国系・日系を中心としていた「アジア系アメリカ人」も多様化した。特にインド系の人口は、米国国勢調査によると 1960 年に 8736 人であったのに対し、2010 年には 318 万人に激増し、中国系、フィリピン系に次いでアジア系として 3 番目となるエスニック・グループとなった。このような背景から、インド系アメリカ文学も増えており、また、従来のアジア系移民文学とは大きく異なり、グローバルなディアスポラ主体が描かれ、次世代の「アメリカ」を映す新しい特徴が見られている。

中南米系、特にメキシコ系アメリカ人は第 2 の人口規模のエスニック・グループであり、400 年前から今日まで大量に移民し、移民として長い歴史を持つ一方で、「New Americans」も多い。特に 1965 年以降は第四波の大量移民により、メキシコ系のディアスポラ・コミュニティはアメリカの南西部から全米各地に広がった。現代において最も多様でその文化背景から急速に人口増加を続けるエスニック・グループであり、現代および未来のアメリカはメキシコ系アメリカ人の存在をなくして語るができないといえる。

本課題担当者がこれまで研究してきた作家作品は、近年アメリカの大学・大学院の授業で扱われるなどアメリカン・スタディーズの学問分野において注目されていたが、概して研究は少なかった。しかし、「New Americans」とそのエスニック・コミュニティは急速に人口を増やしていると同時に、今後アメリカ内外で、文化、社会、政治において存在感を増していくグループである。彼女たちの自己およびエスニック・コミュニティの表象と、アイデンティティ形成に関わる研究は今後の「アメリカ」を考える上で重要性の高い研究だと考えられる。

また、現代エスニック・アメリカ女性文学における表象は、その多文化性および女性作家たちの個人的経験が重視されてきた歴史的背景から、必然的にローカルかつグローバルな視点を提供すると同時に脱中心化に寄与し、変わりゆく「アメリカ」と「アメリカ人」のアイデンティティの過去・現在・未来を映し出すものとなる。そのため、本研究課題を遂行することにより、現代エスニック・アメリカ女性文学および文化研究にさらなる貢献をすることを意図した。

2. 研究の目的

本研究では、主に 1965 年移民法改正以降に多くが移民した「New Americans」(新アメリカ人)と呼ばれるエスニック・グループのアメリカ女性作家たちによる自己/コミュニティをテーマとする 2000 年以降出版の作品を扱い、21 世紀アメリカ女性文学の研究を行った。これらの作品から、さらにグローバル化する「アメリカ」および「アメリカ人」のアイデンティティ形成について、特に人種/エスニシティ、ジェンダー、階級、身体などの文化的差異に関わる表象を分析考察している。「世界文学」化している現代エスニック・アメリカ女性文学の多様な表象から脱中心化への寄与を検証すると同時に、21 世紀のアメリカそしてアイデンティティに関わる諸問題を探ることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、現代エスニック・アメリカ女性文学の文献資料調査・収集とその分析と考察を中心とし、研究活動・交流による情報収集・交換についても積極的に行った。具体的には、国内とアメリカへ各 2 回の出張による文献資料調査・収集、学会や研究会およびワークショップやディスカッション・グループ等の参加を通して、情報収集・交換を行った。

アメリカ出張においては、2019 年 11 月にハワイ大学ハミルトン図書館で主な文献・資料調査を行い、また、当地で開催された米国アメリカ学会年次大会に出席した。文献・資料調査では、大学図書館、一般書店、大学シラバスと指定テキストなどからハワイのローカル作家を含むアジ

ア系アメリカ文学を中心に、現代エスニック・アメリカ女性文学についての調査を行った。

アメリカ学会年次大会では、パネル・ディスカッションへの出席を通して、アメリカ研究における現代エスニック・アメリカ女性文学について、特に人種・エスニシティ、ジェンダーなどの文化的差異の研究の動向について知見を得た。その後、コロナ影響下となり、研究活動が制限された時には、国内外の学会およびセミナー、研究活動・交流を行うウェブサイトや SNS にオンライン参加をすることで継続した。

2 回目の出張は、研究期間延長後の 2023 年 3 月に行うことができ、ニューヨーク大学図書館、ニューヨーク公共図書館、一般書店で調査を行った。この機会には、現代エスニック・アメリカ女性文学の学術的資料調査・収集に加えて、近年評価が高く、販売数の多いマイノリティ女性作家作品や受賞作品などを確認した。

4. 研究成果

本研究対象の文学や作家たちについては、全研究期間内に国内の調査に加えて 2 回のアメリカ出張により、現代エスニック・アメリカ女性文学の文献資料調査・収集を幅広く行うことができた。また、オンライン開催を含む国内・海外学会の利用や研究活動交流ウェブサイトやディスカッション・グループ、SNS の参加を通して、情報収集と研究交流活動を行った。とりわけ Modern Language Association (MLA, 米国現代語学文学協会) と American Studies Association (米国アメリカ学会) の学会 (対面およびオンライン形式) に参加でき、研究課題に関連する情報収集と交換ができたことで多くの知見を得られた。

一方で、研究期間中は、2 回の出産・育児休業、新しい勤務校への異動、コロナによる教務負担増、子の家庭保育要請などの要因の影響により、研究期間を複数回延長する結果となった。また、研究期間後半に予定していたアメリカ出張もコロナの影響で延期せざるを得ず、2 回目は研究期間の最終年度末に行うこととなった。

最終年度を含めた研究期間内の成果は、現代エスニック・アメリカ女性文学について広範な資料調査と情報収集を基に、継続的な積み上げができたことである。論文による成果発表については、メキシコ系女性作家 Gloria Anzaldúa とハワイの女性作家 Lois-Ann Yamanaka の言語とアイデンティティに関する論文 1 本、インド系アメリカ女性作家 Jhumpa Lahiri の言語、グローバリティとアイデンティティなどをテーマとして論文 3 本の計 4 本の発表を行った。特に研究課題のテーマと密接な主題を探究して創作を行っている Jhumpa Lahiri については、複数の成果発表を行う結果となった。

研究対象については 2000 年代以降に出版されたアジア系、アラブ系、中南米系のアメリカ女性文学についての資料調査の対象とし、横断的に比較検討を行ってきた。その結果、最終的に議論の焦点化の必要性を感じ、本研究課題の成果発表の対象としては、アジア系アメリカ女性作家と中南米系アメリカ女性作家とすることとした。

最終年度末に行った 2 回目の調査で得られた越境的なアプローチや世界文学の視点による研究、そしてアジア系と中南米系のアメリカ文学との接点に注目する研究などから、本研究課題への応用の可能性をさらに見ることができた。また、現代エスニック・アメリカ女性文学を考える際に、特にこれまで取り上げ、研究成果の発表を複数行ってきた Jhumpa Lahiri が重要な作家の一人と位置づけられることを再確認した。

今後は最終年度末の出張により得られた資料を含めた文献の分析と比較考察をさらに進めていく計画となっている。特にアジア系と中南米系のアメリカ女性作家の作品を検討し、成果発表については継続して順次行う予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 渡部あさみ	4. 巻 第69号
2. 論文標題 Jhumpa Lahiri の The Lowland における時間と記憶	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文論集	6. 最初と最後の頁 97-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 渡部あさみ	4. 巻 第68号
2. 論文標題 Jhumpa Lahiri のイタリア語による言語実験と創作への影響	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文論集	6. 最初と最後の頁 191-225
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 渡部あさみ	4. 巻 第66号
2. 論文標題 「見知らぬ場所」に生きる Jhumpa Lahiri の短編作品における新アメリカ人の越境とグローバリティ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文論集	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Asami Watanabe	4. 巻 42
2. 論文標題 A Sociolinguistic Approach to Representations of Identities in Contemporary American Ethnic Women's Writings.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『札幌大学総合論叢』	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------